

社会学部

**【2025 年度 大学評価総評】**

社会学部では 2018 年度に開始したカリキュラムに加え、2022 年度から外国語教育新カリキュラムが導入され、積極的にカリキュラム改善に取り組むと同時に着実に新カリキュラム運営できている点は高く評価できる。2022 年度生の外国語教育の教育効果に関する最終評価に向けて、教授会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議などの各会議体において、外国語新カリキュラムの教育効果の中間評価に資する情報を共有したことは評価できる。学習支援として、2022 年から始められた「先輩学生による相談窓口」が安定的にかつ効果的に運営されていることは評価できる。演習 1、2、3 について履修率や卒業論文の提出率が低下していることを問題視し、2025 年度の重点課題として着手した点は評価できる。卒業研究の充実は学生の満足度や大学院進学率の改善とも関連することであるため、本取り組みが成果を上げることを期待する。経済学部の市ヶ谷キャンパス移転を受け、新たな将来構想を構築する必要はあるものの、ソーシャルイノベーションセンターと学部が連携し、社会調査実習や八王子住民向け報告会の実施など八王子市との地域連携を進める新しい試みをされていることは高く評価できる。

**【2025 年度 自己点検・評価結果】**

**I. 改善・向上の取り組み**

**(1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応**

**【2024 年度大学評価結果総評】(参考)**

社会学部では COVID-19 が 5 類に移行したことを受け、授業を原則対面に戻すとともに、コロナ禍中に獲得したオンライン授業のノウハウを活かし、対面授業とオンライン授業やオンデマンド授業の特長や利点を授業改善アンケートの満足度データなども参照しながら、次年度の方針を検討している。また 2022 年度から導入された外国語新カリキュラムの適切な運用とその教育効果について継続的な検討が行われている。さらに「先輩による履修相談窓口」など個別の履修相談会を設け、その効果的な運用を行っている点は評価できる。なお学修成果可視化システム (HaIo) の組織的活用が不十分との認識が有るので、今後は他学部などの活用事例なども参考にしながら、教授会執行部等で組織的な活用方法を検討することが期待される。社会貢献・社会連携では、ソーシャルイノベーションセンターと学部が連携し、社会調査実習や八王子住民向け報告会の実施など新たな取り組みが実現されたことは高く評価できる。

**【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】**

2025 年度も、授業は原則対面としつつ、オンライン授業の有効活用も行なっている。学修成果可視化システム (HaIo) の組織的活用に関しても、基礎演習や演習 1、2、3 に関する情報とも絡めて、継続して行ないつつある。ソーシャルイノベーションセンターと学部との連携もより強化していくと共に、連携に関する情報共有が円滑に行えるように、学生への連絡方法の改善についての議論も教授会で行なっている。

**(2) 改善・向上の取り組み (教育課程およびその内容、教育方法)**

<p>アセスメント・ポリシーに基づき、ディプロマ・ポリシーに示した学習成果を把握しましたか。結果を学部としてどのように評価しましたか。</p> <p>◀ 対応する大学基準：学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。▶</p>	<p>S. 学習成果が達成できていることが確認できた</p> <p>A. 学習成果が概ね達成できていることが確認できた</p> <p>B-1. 学習成果が達成できていないものがあつたことを確認できた</p> <p>B-2. 学習成果の達成度を確認するには、測定方法が不十分であることが確認できた</p> <p>B-3. ディプロマ・ポリシーの見直しの必要性を確認できた</p>	<p>A (学習成果が概ね達成できていることが確認できた)</p>
<p>上記の選択をしたのはなぜですか。実施主体、測定対象や測定方法を踏まえて理由を具体的に記入してください。</p>		
<p>◀ 理由 ▶</p>		

教授会、教務委員会、および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」で、学生の学習成果に関する成績データなどを継続的に把握し、評価検討している。学生モニターへのインタビューによる卒業論文に関する調査も、執行部により行い、教授会でも共有した。

教育課程およびその内容、教育方法について、学部として過去4年間（2021年度～2024年度）の中で特に改善・向上に向けて取り組んだ事例について、①～⑩の項目から「改善した項目」を選択し（レ点チェック）、その詳細について「改善内容」「改善した結果良かった点・課題」を記入してください。

《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》

事例	
《改善した項目》 （複数選択可）	<input type="checkbox"/> ①開講時期、開講頻度、授業時間等 <input type="checkbox"/> ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合） <input type="checkbox"/> ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等） <input checked="" type="checkbox"/> ④教育方法（授業の形態、授業方法等） <input type="checkbox"/> ⑤評価基準、評価方法 <input type="checkbox"/> ⑥学生の履修（履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等） <input type="checkbox"/> ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続 <input type="checkbox"/> ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み） <input type="checkbox"/> ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実 <input type="checkbox"/> ⑩その他
《改善内容》 ※理由を含めて記入してください。 対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けを行った。	
《改善した結果良かった点・課題》 現在は原則としては対面で授業を行っているが、大規模授業や、それ以外でも特定の回数はオンライン・オンデマンドでの授業も取り入れることができるようになったため、柔軟な運用や、個別の学生に向けたきめ細かい対応が可能になった。	

### （3）改善・向上の取り組み（教員・教員組織）

教員・教員組織について、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを《項目》の中から選択し、《内容》を記入してください。

- ・教員組織に対する取り組み※  
 ※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理（複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む）について
- ・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みとその成果
- ・授業における指導補助者（TA等）の活用に対する取り組み

《対応する大学基準：教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。》  
 《対応する大学基準：教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。》  
 《対応する大学基準：教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》

《特色または課題》	課題
《項目》	教員組織に対する取り組み※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理（複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む）について
《内容》 3 学科で相乗りしている科目が社会学部には現在複数あるが、学科毎に学生が前提としている知識が異なり、齟齬が生じている場合があるので、それらの解消を目指していく。	

## II. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

### （1）自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

<p>学部における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p> <p>＜対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>《内容》</p>		

(2) オンライン教育の取り組み

<p>オンライン授業は「2024 年度以降の授業編成における留意点について (報告)」(2023 年度第 6 回学部長会議資料 No. 7) に沿って、適した授業科目に用いられ、その有効性や教育効果を確認し、改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>《内容》</p>		

(3) 学生の声を活かした取り組み

<p>学部レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>《内容》</p>		
<p>授業レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>《内容》</p>		

III. 2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022 年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図る (2022 年度～2025 年度)</li> <li>2022 年度生の外国語教育の見通しが見え始める 2024 年度以降、外国語新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。</li> <li>2018 年度から導入したカリキュラムについて評価検討し、今後のカリキュラムについて検討する。</li> </ul>
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語新カリキュラム開始時にあたる 2022 年度生の外国語教育に対する教育効果に関する中間評価に着手する。新カリキュラムの 3 年目の運営状況について情報</li> </ul>

		<p>収集を図る。この際、教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」を使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2018年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集を行い、各会議体において、より詳細なかたちで課題の洗い出しを進める。</li> </ul>
達成指標		<ul style="list-style-type: none"> <li>教授会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議などで、2022年度生の外国語教育に対する教育効果に関する中間評価に資する情報が共有ができています。</li> <li>2018年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集蓄積があり、詳細なかたちで課題が洗い出されている。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>教授会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議などの各会議体において、外国語新カリキュラムの教育効果の中間評価に資する情報を共有した。</li> <li>2018年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報についても上記会議体を通じて収集を行い、課題の洗い出しを進めた。</li> </ul>
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>各会議体において洗い出された課題を分析し、中間評価のための指標を見だしを進める。</li> <li>中間目標設定時にはなかった経済学部和市ヶ谷移転問題への長期的な見通しも新たな背景状況として加えながら、情報収集と課題の分析を進める。</li> </ul>
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	2022年度に導入された外国語教育新カリキュラムの効果についての情報共有、2018年度導入のカリキュラムの効果についての情報収集と検討が進められたことを評価する。
改善のための提言	収集された情報をもとにして、中間評価に向けた課題の明確化と分析が進められることを期待したい。経済学部の市ヶ谷移転が社会学部のカリキュラムや履修状況にもたらす影響についても検討課題の一つに加えていただくことを期待したい。	
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。</li> <li>With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせるの質の高い授業を検討する。</li> </ul>	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員による履修相談会、2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果の評価し、より効果的な対応方法について検討していく。</li> <li>コロナが5類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続ける。</li> </ul>	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が把握され、より効果的な対応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が提示されている。</li> <li>対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員や科目ごとに最適化する具体策が提示されている。</li> </ul>	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果の評価して、教員による履修相談会を廃止し、2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」と成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」は継続することに変更した。</li> <li>教員や科目ごとに、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の利点と不利点について検討し、特に大規模授業へのオンライン授業の導入を促すなどの最適化策を提示した。</li> </ul>
	改善策	好評である「先輩学生による相談窓口」に対応してくれる上級生協力者の活用をよ

		<p>り積極的にすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業に対する学生による評価を検証するとともに、大規模授業における教員の負担感や教育効果の達成度などについて、対面授業の場合と比較しながら検討を進める。</li> </ul>
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	「先輩学生による相談窓口」、「個別履修相談会」を継続したこと、オンライン・オンデマンド授業の利点・不利点について検討したことを評価する。
	改善のための提言	2022年から始められた「先輩学生による相談窓口」は、近年細りがちな先輩・後輩間の情報共有を促す意味でも意義深いものなので、今後も継続されることを期待したい。また、オンライン授業は受講生の数が多くなり、授業をさらに大規模化する傾向がある。その可否も含めたオンライン授業の効果、さらに大規模授業全般に関する教員の負担感と教育効果についての検討を進めていかれることを期待する。
	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次教育のうち基礎演習の在り方について、より効果的な教育内容、教育方法、少人数教育の一層の充実化を進める。</li> <li>・学部教育の中心的存在である演習1、2、3について履修率、卒業論文の提出率の向上を目指す。また、優秀卒業論文集の刊行を継続し、各演習での学習に活用する。</li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習の教育内容の向上のために、担当者懇談会の成果を活用することを継続する。</li> <li>・基礎演習各クラスの状況と問題点を把握し、複数年度に渡って未解決の問題点の改善に着手する。</li> <li>・演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法が有効に機能しているかの確認にむけて、履修状況、運営実態を分析する。</li> <li>・web公開された優秀卒業論文集の活用状況について把握し、活用事例などを紹介するなどして「動機づけ」を促し、卒業論文の提出率のさらなるアップにつなげる。</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容の向上策を提案でき、複数年度に渡って未解決の問題を把握できている。</li> <li>・演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法が有効に機能しているかの分析が行われ、有効に機能しているかどうかを判明している。</li> <li>・優秀卒業論文集の刊行、web公開が卒論の「動機づけ」につながっている。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春・秋学期の最終授業回時に基礎演習担当者懇談会を実施し、担当者にアンケートを行った結果を教授会で共有した。</li> <li>・懸念されている専門演習の履修率および卒業論文の提出率の低下についての打開策として、上記の懇談会を通じて基礎演習時から専門演習への導入を促すような内容を盛り込んでもらうよう担当教員に提案した。</li> <li>・前年度の優秀卒業論文集を刊行し Web 公開を行い、今年度の優秀卒業論文集の掲載論文を選考・決定した。</li> </ul>
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・23年度に一旦歯止めがかかってきたかにみえた卒論提出率は低調のままであり、向上回復を実現する方策についてさらに検討を進める。</li> </ul>
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	兼任講師を含めた基礎演習担当者との懇談会の担当者へのアンケートの実施、優秀卒業論文集の作成とそのWeb公開を継続していることを評価する。また、結果にはつながらなかったものの、専門演習履修率と卒論提出率の打開策を検討していることも評価する。
改善のための提言	卒論の提出率が向上せず、低調なままなのは残念である。専門演習での少人数教育は本学部の教育方針の柱の一つである。近年の学生の学習・履修スタイルにおける専門演習の位置付けの変化との関連性に考慮しながら、なぜ学生が卒論執筆のモチベーションを持ちにくい状況にあるのかについて、今後も引き続き検討されることを	

		期待したい。
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>安定した定員充足率が維持できるよう査定する。</li> <li>高等学校の新教育課程の開始に対応して入試科目等の内容を検討する。</li> </ul>
年度目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>安定した入学定員が維持されるよう、査定とそのための情報収集に努める。</li> <li>入学センターから入試制度の検討のための情報収集を行う。</li> <li>2025年入学生からの新課程に対応しつつ、入試経路別に適切な比率を検討する。</li> </ul>
達成指標		<ul style="list-style-type: none"> <li>安定した定員充足率が維持されている。</li> <li>入試制度の導入を検討するため収集した情報を精査する。</li> <li>2025年入学生からの新課程への対応策が明示され、入試経路別の適切な比率が示されている。</li> </ul>
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定した定員充足率が維持されている。</li> <li>入試制度の情報を精査し、方式別合格者数に反映させた。</li> <li>新課程による2025年入学生のための入試関連作業について確認し、工房体制や入試経路別の合格者比率について担当者間で情報を共有した。</li> <li>経済学部の移転の方針が法人決定されて公開されたことに伴う志望者の動向について検討した。</li> </ul>
	改善策	新課程の入学生の結果を精査して初年度の対応を振りかえり、2年目以降の工房体制や入試経路別の合格者比率について検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	方式別合格者数の調整、経済学部移転の法人決定が公開されたことによる志望者数の動向についての検討がなされたこと、また、総じて安定した学生定員の充足が維持されていることを評価する。
	改善のための提言	入試方式別の合格点のバランスから見た合格者数の調整、大学入試をめぐる全国的な環境とともに合格者の進学後の実績に配慮した入試別経路の合格者比率について、今後も引き続き検討を進めていかれることを期待したい。また、入試工房体制が安定的に維持されるための工夫についても検討されることを期待したい。
評価基準		教員・教員組織
中期目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。</li> </ul>
年度目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>専任教員の欠員見込み状況を確認する。</li> <li>欠員状況について、適切な科目設定などを確認する。</li> <li>専任教員の欠員について採用対応する。</li> </ul>
達成指標		<ul style="list-style-type: none"> <li>専任教員の欠員見込み状況が確認できている。</li> <li>欠員に対する適切な科目設定などが確認されている。</li> <li>専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。</li> </ul>
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>「日本語教育」「哲学」「都市と地域の社会学」の採用人事を行うとともに、今後の専任教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。</li> </ul>
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>任期途中退職によって欠員が生じていた日本語教育の採用人事を先行させたことにより、本来は間をあげずに後任人事をすすめるべきところ据え置いていた英語の採用人事をすすめる。</li> </ul>
	質保証委員会による点検・評価	
所見		3つの採用人事が着実に進められ新任教員の採用が決まったこと、また今後の退職による欠員補充についての検討がなされたことを評価する。

	改善のための提言	来年度は英語の採用人事が着実に進められ、新任教員が補充されることを期待したい。また、2023年度の将来構想委員会で提言のあった「視野形成科目」の人事についても検討されることを期待したい。
	評価基準	学生支援
	中期目標	・オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、「先輩学生による相談窓口」(2022年度新規)、成績不振学生に対する個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。
	年度目標	・2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」の実施を継続すると共により効果的なありかたも検討し、初年度学生のキャンパス生活に関する不安に対応する。 ・「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行う。 ・オフィスアワーの実施を徹底する。
	達成指標	・好評である「先輩学生による相談窓口」が着実に実施され、より効果的な運用ができてきている。 ・「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果が出ている。 ・オフィスアワーが設定され、情報提供されている。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	・「先輩学生による相談窓口」は実施3年目を迎え、相談に応じてくれる上級生の参加も積極的である。 ・成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」を、例年通り実施した。 ・教授会において多摩キャリアセンターによる学部生の就職動向の報告を実施し、就職支援のあり方について理解を深めた。 ・各教員がオフィスアワーを設定し、学生の相談に対応した。
	改善策	・「先輩学生による相談窓口」が好評のため、さらに効果的な運用のあり方を検討する。 ・2025年1月に発生したハンマー殴打事件の影響もあり、学生のメンタルヘルスへの懸念が広がっているため、学生相談室や留学生センターなどの関係部署とも協力しながら対応を進めるとともに、教員の理解と協力を呼びかける。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	これまでの様々な取り組みが今年度も着実に継続されていること、特に今年度3年目を迎えた「先輩学生による相談窓口」が良い効果をあげていることを高く評価する。
改善のための提言	年度末に近い2025年1月に学生によるハンマー殴打事件が発生したが、これは学生のメンタルヘルスに関する懸念を広めた。今後、学内各部署と協力しながら、この問題への対応を進めていかれることを期待したい。	
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	・多摩キャンパスで取り組んでいる多摩地域交流センター、グローバル教育センターなどが進める事業及び学部の共催協賛等の事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。
	年度目標	・ソーシャル・イノベーションセンター(SIC)、グローバル教育センターなどが進める事業を着実に実施する。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加を継続する。 ・社学コロキウムなどの研究集会について、可能な範囲で学外にも公開する。
	達成指標	・ソーシャル・イノベーションセンター(SIC)、グローバル教育センターが進める事業が実施されている。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに参加している。 ・社学コロキウムなどが実施され、学外にも公開されている。

年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャル・イノベーション・センターの活動に参加する学生の数が増加し、サークル活動に比する学生のキャンパスライフの基盤の一つになりつつある。</li> <li>・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに引き続き協力した。</li> <li>・社学コロキウムとして、「生(ライフ)の現場」から障害と運動を問いなおす」および「貧困の犯罪化」の2回を公開で開催した。</li> </ul>
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャル・イノベーション・センターを通して行われる社会貢献・社会連携に、さらに協力する。</li> </ul>
	質保証委員会による点検・評価	
所見	<p>ソーシャル・イノベーションセンター、大学コンソーシアム八王子等の連携をつじた学部の地域・社会連携のこれまでの取り組みが、今年度は学生の参加が進んだことでさらに深まったことを高く評価する。また、「社学コロキウム」が定期的で開催されてきていることも評価したい。</p>	
改善のための提言	<p>教員と学生の参加による地域・社会連携に関する報告や活動が、今後もさらに活発になることを期待する。「社学コロキウム」も引き続きアクチュアルなテーマ設定で開催されることを期待する。</p>	
<p><b>【重点目標】</b>          社会学部にとっては、2022年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図りつつ、その教育効果に関する中間評価に着手することが最も重要である。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b>          教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの適切な運営が図られているか専任教員間で情報共有を行うとともに、2022年度生の外国語教育に対する教育効果に関する中間評価に資する情報を共有する。</p>		
<p><b>【年度目標達成状況総括】</b>          全体として、着実に達成指標をクリアし、2022年度からの外国語新カリキュラムも、着実に運営されている。</p> <p>社会貢献・社会連携分野では、ソーシャル・イノベーション・センターの活動が本格化し、学生の参画も好調である。</p> <p>その一方で、経済学部在市谷移転が法人決定されたことに伴い、中期目標の先を見据えた将来ビジョンの構築の必要性があらたに生じている。</p> <p>さらに、2025年1月に発生したハンマー殴打事件への対応が、今後の中間目標に向けた動きにも影響してくることが懸念される。</p> <p>こうした、中間目標設定時に想定されていなかった周辺状況の変化にも対応しながら、次年度以降も引き続き各年度目標の着実な達成を目指す。</p>		

#### IV. 2025年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図る（2022年度～2025年度）</li> <li>・2022年度生の外国語教育の見通しが見え始める2024年度以降、外国語新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。</li> <li>・2018年度から導入したカリキュラムについて評価検討し、今後のカリキュラムについて検討する。</li> </ul>
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語新カリキュラム開始時にあたる2022年度生の外国語教育の教育効果に関する最終評価に向けて取り組む。新カリキュラム4年目の運営状況について情報収集を図る。この際、教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」を使う。</li> <li>・2018年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集を行い、各会議体</li> </ul>

	において、より詳細なかたちで課題の洗い出しを進める。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議などで、2022年度生の外国語教育に対する教育効果に関する最終評価に向けた情報が共有できている。</li> <li>・2018年度から導入されたカリキュラムの最終評価検討のための情報収集蓄積があり、詳細なかたちで課題が洗い出されている。</li> </ul>
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。</li> <li>・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせるの質の高い授業を検討する。</li> </ul>
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による履修相談会、2022年度より開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果をより詳細に評価し、さらに効果的な対応方法について検討していく。</li> <li>・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続けるとともに、教員間で情報を共有する。</li> </ul>
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が正確に把握され、効果的な対応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が詳細に提示されている。</li> <li>・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員や科目ごとに最適化する具体策が提示されるとともに、教員間で情報が共有されている。</li> </ul>
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次教育のうち基礎演習の在り方について、より効果的な教育内容、教育方法、少人数教育の一層の充実化を進める。</li> <li>・学部教育の中心的存在である演習1、2、3について履修率、卒業論文の提出率の向上を目指す。また、優秀卒業論文集の刊行を継続し、各演習での学習に活用する。</li> </ul>
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習の教育内容の向上のために、担当者懇談会の成果を、論文指導についてなどを中心に活用していくことを継続する。</li> <li>・基礎演習各クラスの状況と問題点を把握し、半期ごとの担当者変更の試行など、複数年度に渡って未解決の問題点を改善していく。</li> <li>・演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法が有効に機能しているかの確認にむけて、履修状況、運営実態を分析し、教員間で共有する。</li> <li>・優秀卒業論文集の活用状況について把握し、新たなコンテンツを加えるなどによって「動機づけ」を促し、卒業論文の提出率のさらなるアップにつなげる。</li> </ul>
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容の向上策を提案すると共に、複数年度に渡って未解決の問題の解消にも着手している。</li> <li>・演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法が有効に機能している。</li> <li>・優秀卒業論文集の刊行や新たなコンテンツが卒論の「動機づけ」につながっている。</li> </ul>
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した定員充足率が維持できるよう査定する。</li> <li>・高等学校の新教育課程の開始に対応して入試科目等の内容を検討する。</li> </ul>
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した入学定員が維持されるよう、査定とそのため情報収集に引き続き努める。</li> <li>・入学センターなどから入試制度の検討のための情報収集を引き続き行う。</li> <li>・2025年入学生からの新課程に対応し、入試経路別の適切な比率の検討を続ける。</li> </ul>
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した定員充足率が継続している。</li> <li>・入試制度の導入を検討するため収集した情報の精査を続ける。</li> <li>・2025年入学生からの新課程へ対応がなされると共に、入試経路別の適切な比率が継続して示されている。</li> </ul>
評価基準	教員・教員組織

中期目標	・2022年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。
年度目標	・専任教員の欠員見込み状況などの確認を続ける。 ・欠員状況について、適切な科目設定などの確認を続ける。 ・専任教員の欠員について採用対応を継続して行う。
達成指標	・専任教員の欠員見込み状況が継続して確認されている。 ・欠員に対する適切な科目設定などが継続して行えている。 ・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保を継続して行えている。
評価基準	学生支援
中期目標	・オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、「先輩学生による相談窓口」(2022年度新規)、成績不振学生に対する個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。
年度目標	・2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」の実施を継続すると共により効果的なありかたも引き続き検討し、初年度学生のキャンパス生活に関する不安に対応していく。 ・「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を引き続き行う。 ・オフィスアワーの実施をより徹底する。
達成指標	・好評である「先輩学生による相談窓口」が着実に実施され続け、さらに効果的な運用ができています。 ・「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果を継続している。 ・オフィスアワーがより徹底して設定され、情報提供もされている。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	・多摩キャンパスで取り組んでいる多摩地域交流センター、グローバル教育センターなどが進める事業及び学部の共催協賛等の事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。
年度目標	・ソーシャル・イノベーションセンター(SIC)、グローバル教育センターなどが進める事業を継続して着実に実施していく。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加をさらに継続する。 ・社会学コロキウムなどの研究集会について、可能な範囲で学外にも公開することを続ける。
達成指標	・ソーシャル・イノベーションセンター(SIC)、グローバル教育センターが進める事業が継続して実施されている。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに継続して参加している。 ・社会学コロキウムなどが実施され、学外にも継続して公開されている。
<p><b>【重点目標】</b> 社会学部では、教育の中心的存在である演習1、2、3について履修率、卒業論文の提出率の向上を目指していくことが最も重要である。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b> 優秀卒業論文集の活用状況について把握し、教員や卒論提出者による新たなコンテンツを加えるなどによって「動機づけ」を促し、卒業論文の提出率のさらなるアップにつなげる。また、卒業論文に至る、基礎演習や演習1、2、3の在り方について教員間で議論し、情報を共有していく。</p>	

IV-2. 2025年度中期目標・年度目標達成状況報告書

社会学部

評価基準	中期目標 (2022～2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告				
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）			質保証委員会による点検・評価（教授会報告）	
				自己評価	理由	改善策	所見（達成状況の評価とその理由）	改善のための提言
教育課程・学習成果 【教育課程・教育内容に関すること】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図る（2022年度～2025年度）</li> <li>・2022年度生の外国語教育の見通しが見え始める</li> <li>・2024年度以降、外国語新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。</li> <li>・2018年度から導入したカリキュラムについて評価検討し、今後のカリキュラムについて検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語新カリキュラム開始時にあたる2022年度生の外国語教育の教育効果に関する最終評価に向けて取り組む。新カリキュラム4年目の運営状況について情報収集を図る。この際、教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」を使う。</li> <li>・2018年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集を行い、各会議体において、より詳細なかたちで課題の洗い出しを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議などで、2022年度生の外国語教育に対する教育効果に関する最終評価に向けた情報が共有できている。</li> <li>・2018年度から導入されたカリキュラムの最終評価検討のための情報収集蓄積があり、詳細なかたちで課題が洗い出されている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学部市ヶ谷移転後の構想と絡めての外国語教育に関する報告が英語および諸外国語教員グループから執行部になされ、教授会とも共有できているため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育効果の細部の検討が、より求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度に中期目標を設定した時点では想定されていなかった経済学部市ヶ谷移転の後の見通しを絡めながら、外国語新カリキュラムの教育効果についての情報が収集され、その内容が教授会内でも共有されたことは評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、外国語新プログラムの最終評価に向けた検討が進められるとともに、2018年度に導入されたカリキュラムに関する評価検討も進められることが望まれる。</li> </ul>
教育課程・学習成果 【教育方法に関すること】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。</li> <li>・Withコロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせた質の高い授業を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による履修相談会、2022年度より開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果をより詳細に評価し、さらに効果的な対応方法について検討していく。</li> <li>・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続けるとともに、教員間で情報を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が正確に把握され、効果的な対応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が詳細に提示されている。</li> <li>・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員や科目ごとに最適化する具体策が提示されるとともに、教員間で情報が共有されている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果がある程度は把握されたため。</li> <li>・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員間で情報が共有されたため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに細かい具体策や、情報共有を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な相談会や相談窓口が適切に運営され、その効果についての実態もある程度把握されていることは評価できる。</li> <li>・オンライン/オンデマンドの授業は受講者数が増える傾向があり、それが結果としてオンライン/オンデマンド授業を固定化する可能性も否定できない。そのようなオンライン/オンデマンド授業の持つ教育効果や教員の授業負担などについて、その利点・不利点を今後も継続的に検討していくことが望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談会や相談窓口の運営は、その成果に関する検討からのフィードバックを実行しつつ、今後も継続されることが望まれる。</li> <li>・オンライン/オンデマンドの授業は受講者数が増える傾向があり、それが結果としてオンライン/オンデマンド授業を固定化する可能性も否定できない。そのようなオンライン/オンデマンド授業の持つ教育効果や教員の授業負担などについて、その利点・不利点を今後も継続的に検討していくことが望まれる。</li> </ul>
教育課程・学習成果 【学習成果に関すること】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次教育のうち基礎演習の在り方について、より効果的な教育内容、教育方法、少人数教育の一層の充実化を進める。</li> <li>・学部教育の中心的存在である演習1、2、3について履修率、卒業論文の提出率の向上を目指す。また、優秀卒業論文集の刊行を継続し、各演習での学習に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習の教育内容の向上のために、担当者懇談会の成果を、論文指導についてなどを中心に活用していくことを継続する。</li> <li>・基礎演習各クラスの状況と問題点を把握し、半期ごとの担当者変更の試行など、複数年度に渡って未解決の問題点を改善していく。</li> <li>・演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法が有効に機能しているかの確認にむけて、履修状況、運営実態を分析し、教員間で共有する。</li> <li>・優秀卒業論文集の活用状況について把握し、新たなコンテンツを加えるなどによって「動機づけ」を促し、卒業論文の提出率のさらなるアップにつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容の向上策を提案すると共に、複数年度に渡って未解決の問題の解消にも着手している。</li> <li>・演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法が有効に機能している。</li> <li>・優秀卒業論文集の刊行や新たなコンテンツが卒論の「動機づけ」につながっている。</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習担当者懇談会や教授会での議論、卒論コメント集の作成などで、履修率や卒業論文の提出率に関し上昇の兆しが見られたため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒論コメント集の内容をより進化させるとともに、動機づけにつながるよう、学生にも、教員にも、より周知徹底させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年低下傾向が見られた演習履修者数や卒論提出率に若干ながら復調の兆しが見られたことは高く評価できる。</li> <li>・優秀卒業論文集の刊行が卒論執筆へのひとつの大きな「動機づけ」につながっている点も高く評価できる。</li> <li>・卒論コメント集の導入は、学生の卒論執筆への動機づけを促す一要因になりうるという点から見て評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も基礎演習などを通じてゼミ履修、卒論執筆への学生の動機づけを高め、それが本学部での当然の慣行であるという認識が共有されていくことが望まれる。また、そのためには卒業論文に至るまでの基礎演習や演習1、2、3の在り方について教員間で議論し、情報を共有していくことも望まれる。</li> <li>・学生及び教員の間に、卒論コメント集の存在についての情報を定着化していくこと、また卒論コメント集の内容をさらに進化させていくことが望まれる。</li> </ul>
学生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した定員充足率が維持できるよう査定する。</li> <li>・高等学校の新教育課程の開始に対応して入試科目等の内容を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した入学定員が維持されるよう、査定とその他の情報収集に引き続き努める。</li> <li>・入学センターなどから入試制度の検討のための情報収集を引き続き行う。</li> <li>・2025年入学生からの新課程に対応し、入試経路別の適切な比率の検討を続ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した定員充足率が継続している。</li> <li>・入試制度の導入を検討するため収集した情報の精査を続ける。</li> <li>・2025年入学生からの新課程へ対応がなされると共に、入試経路別の適切な比率が継続して示されている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学的に2025年度入試は入学者が過多だったため、定員充足率がやや高くなってしまったが、情報の精査や入試経路別の適切な比率は示されたため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・査定の精度をより向上させていくとともに、入学センターとのやりとりを密に継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試経路別の受験生の情報が収集され、また適切な入試経路別の比率への調整が進められていることは評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度は入学者がやや多くなってしまったが、これからは査定の精度を向上させ、学部の適切な定員管理を進めていくことが期待される。</li> <li>・入学後の学習状況の検討を含め、入試経路別の適切な比率について今後も検証を進めていくことが望まれる。</li> </ul>
教員・教員組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員の欠員見込み状況などの確認を続ける。</li> <li>・欠員状況について、適切な科目設定などの確認を続ける。</li> <li>・専任教員の欠員について採用対応を継続して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員の欠員見込み状況が継続して確認されている。</li> <li>・欠員に対する適切な科目設定などが継続して行えている。</li> <li>・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保を継続して行えている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員の欠員見込み状況が継続して確認されたため。</li> <li>・欠員に対する適切な科目設定なども継続して行えたため。</li> <li>・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できなかった部分があったため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会政策科学科の新任人事を特に重点的に進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員の欠員見込みの状況が把握されていることは評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会政策科学科の欠員人事で専任教員が確保できなかったのは今回が2回目である。科目設定に関する検討も含め、この欠員を埋める人事を進めていくことが望まれる。</li> </ul>
学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、「先輩学生による相談窓口」（2022年度新規）、成績不振学生に対する個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」の実施を継続すると共により効果的なありかたも引き続き検討し、初年度学生のキャンパス生活に関する不安に対応していく。</li> <li>・「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を引き続き行う。</li> <li>・オフィスアワーの実施をより徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好評である「先輩学生による相談窓口」が着実に実施され続け、さらに効果的な運用ができています。</li> <li>・「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果を継続している。</li> <li>・オフィスアワーがより徹底して設定され、情報提供もされている。</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好評である「先輩学生による相談窓口」が着実に実施され続け、さらに効果的な運用ができたため。</li> <li>・「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果を継続したため。</li> <li>・オフィスアワーがより徹底して設定され、情報提供もされたため。</li> <li>・2025年1月に発生したハンマー殴打事件の影響もあり、学生のメンタルヘルスへの懸念が広がっていたが、学生相談室や留学生センターなどの関係部署とも協力しながら対応を進めることができたため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「先輩学生による相談窓口」の、さらに効果的な運用のあり方を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの様々な取り組みが今年度も着実に継続されていること、特に今年度4年目を迎えた「先輩学生による相談窓口」が引き続き効果的に運用されていることを高く評価する。</li> <li>・さらにこの「先輩学生による相談窓口」は、相談をする下級生のみならず、相談を受ける上級生にとっても意義ある取り組みとなっていることを高く評価したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もこれらの取り組みが継続的に実施・運営されていくことが期待される。</li> <li>・「先輩学生による相談窓口」を、ゼミ募集に活用してみるのかもしれない。</li> <li>・2023年度の将来構想委員会で提言のあった「視野形成科目」の人事について、今後の経済学部の市ヶ谷移転を考慮に入れながら検討されることが望まれる。</li> </ul>

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告				
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）			質保証委員会による点検・評価（教授会報告）	
				自己評価	理由	改善策	所見（達成状況の評価とその理由）	改善のための提言
社会貢献・社会連携	<p>・多摩キャンパスで取り組んでいる多摩地域交流センター、グローバル教育センターなどが進める事業及び学部共催協賛等の事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。</p> <p>・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。</p>	<p>・ソーシャル・イノベーションセンター（S I C）、グローバル教育センターなどが進める事業を継続して着実に実施していく。</p> <p>・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加をさらに継続する。</p> <p>・社会学コロキウムなどの研究集会について、可能な範囲で学外にも公開することを続ける。</p>	<p>・ソーシャル・イノベーションセンター（S I C）、グローバル教育センターが進める事業が継続して実施されている。</p> <p>・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに継続して参加している。</p> <p>・社会学コロキウムなどが実施され、学外にも継続して公開されている。</p>	S	<p>・ソーシャル・イノベーションセンター（S I C）、グローバル教育センターが進める事業が継続して実施されたため。</p> <p>・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに継続して参加したため。</p> <p>・社会学コロキウムなどが実施され、学外にも継続して公開されたため。</p>	引き続き同様に継続していく。	<p>・社会貢献・社会連携の様々な活動が継続的に実施されていることは評価できる。</p> <p>・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに継続して参加している点も評価に値する。</p> <p>・「社会学コロキウム」は安定的に実施され、学外にも公開している点は評価できる。</p>	<p>教員と学生が参加し、地域社会との連携する活動が今後もさらに活発になることが期待される。また「社会学コロキウム」も引き続きアクチュアルなテーマ設定で開催されることが期待される。</p>

自己評価について

- S 目標を十分達成し、質の向上が顕著である。
- A 目標をほぼ達成し、質の向上が見られる。
- B 目標の達成が不十分である。
- C 目標が達成できていない。

【重点目標】	【目標を達成するための施策等】
<p>社会学部では、教育の中心的存在である演習1、2、3について履修率、卒業論文の提出率の向上を目指していくことが最も重要である。</p>	<p>優秀卒業論文集の活用状況について把握し、教員や卒論提出者による新たなコンテンツを加えるなどによって「動機づけ」を促し、卒業論文の提出率のさらなるアップにつなげる。また、卒業論文に至る、基礎演習や演習1、2、3の在り方について教員間で議論し、情報を共有していく。</p>
【年度目標達成状況総括】	
<p>教員や卒論提出者による新たなコンテンツを加えた卒論コメント集を作成することができ、「動機づけ」を促し、卒業論文の提出率のさらなるアップにつなげる目処をつけることができた。また、卒業論文に至る、基礎演習や演習1、2、3の在り方について教員間で議論し、情報を共有していくこともできた。</p> <p>学生支援についても、2025年1月の殴打事件に対する学生への対応を着実に行うことができた。</p> <p>経済学部市ヶ谷移転後に向けた議論も様々な進めることができつつある。</p>	